

# 水道スマホ検針システム

## 中国地方の自治体等にS提供

### スマホ利用で検針員の負担軽減

三菱電機グループの情報システムサービス企業・株式会社ビーシーシー（福山市光南町3-6-10、関谷 洋社長、電084・921・2477）はこのほど、ソフトハウスの株式会社（佐賀県武雄市）が開発した「水道スマホ検針システム」の取り扱いを開始した。中国地方の自治体を中心にサービス提供を行う。



「水道スマホ検針システム」の画面

従来の水道検針業務は、大型の「ハンディターミナル」で行っていたが、今回のシステムでは、汎用のスマートフォン（スマホ）を利用するため、軽量になることで検針員の負担が軽減される。

また、大画面かつ高精細となり視認性が向上する▽入力やエラーの内容を音声で読み上げる機能により、ミス防止を図ることができ、▽カメラ機能でメーターの数値を画像として履歴保存できる▽メーター位置の画像保存（オプション）ができるため誤検針の抑制に繋げることができる——などのメリットが挙げられている。

同社では、これらスマホ検針による業務効率化の実現を支援していく方針。